

# 2017年度「重い病気を抱える子どもの学び支援活動助成」 助成先選考結果のご報告

第三回目となります「重い病気を抱える子どもたちの学び支援活動助成」につきまして、助成先が決定いたしましたので、ご報告いたします。

## 助成先団体及び対象となる事業（50音順）

	団体名	事業名	助成希望額
1	特定非営利活動法人 絵本カーニバル	長期に入院する子どもたちに、絵本とワークショップを通じて学習体験とコミュニケーションを届けるプロジェクト	¥1,680,000
2	特定非営利活動法人 OnPal	重い病気で入院する子どもを対象とした音楽授業等の実施と他地域への展開	¥900,000
3	一般社団法人 こどものホスピスプロジェクト	重い病気を抱える子どものための、体験型のまなびプログラムの環境整備事業	¥1,500,000
4	特定非営利活動法人 チャイルド・ケモ・ハウス	重い病気を抱える子どもとその家族への遊ぶ機会、学ぶ機会を届けるボランティアスタッフ派遣事業	¥1,732,000
5	特定非営利活動法人 ポケットサポート	自宅療養中の病弱児と学習支援者を双方向Webで結ぶ学習支援事業	¥1,650,400
6	特定非営利活動法人 ミュージズの夢	子ども達の芸術分野（音楽・アート）の学び・遊びをサポートする人の育成と派遣	¥792,510
7	特定非営利活動法人 み・らいず	医療的ケアが必要な子どものイベントと保護者向け、支援者向け研修会	¥1,194,000
8	特定非営利活動法人 ラ・ファミリエ	高校生を中心とした入院中及び復学支援者育成	¥1,602,300

合計11,051,210円

## 今回の助成について

**募集期間**：2017年7月1日～2017年8月31日

**助成金総額**：10,000千円

**応募数**：18件

**採択事業数**：8件（計11,051,210円）

**助成対象となる活動期間**：2018年1月1日～2018年12月31日

**選考委員会**：助成選考に際しては、本テーマに関して専門的知見を持つ4名の選考委員（当財団理事1名と社外有識者3名）で組織する選考委員会にて、当財団の助成目的に基づき、厳正な審査を行った。

## 選考委員長からのコメント

本助成は、重い病気により、学習環境に困難を抱える子どもたちの意欲を高め、学びを支援する事業を対象としたもので、3年目の実施となります。

助成事業を行っていることが広く知られるようになった結果、応募は全国各地からありました。しかし残念ながら、応募団体数は18件と昨年より減少しました。活動に取り組む団体自体が絶対に少なく、これから広げていくべき領域であると感じています。

助成選考委員会にて、事業の趣旨に即して厳正に審査を行い、8件を採択しました。今回の審査でも例年通り、以下の観点を重視しました。

- ・モデル性  
他の団体のモデルとなりうる効果的なプログラムやコンテンツ、ツール、ノウハウ等があるか
- ・地域との連携  
病院や学校などとの連携により、活動の実効性が高いか
- ・継続性  
財源確保や広報の方法が充実しているか

申請団体の中には、非常にすぐれた取り組みであるのに、運営基盤や資金の点で、事業の継続性に課題を抱えている状況も見うけられました。今回採択された助成団体の皆様は、申請事業の目的が明確であり、本テーマにおいて先駆的な活動を実践している団体として、よきモデルとなっただけことを期待しています。その活動がモデルとなり、good practiceが広がっていく一助となれば幸いです。

当財団としても、本活動テーマに対する社会的な認知・関心を高めていけるような活動にも取り組んでいきたいと考えています。

公益財団法人ベネッセこども基金  
理事・選考委員長  
耳塚寛明

**【団体名】**

特定非営利活動法人 絵本カーニバル

**【URL】**

<http://www.ehoncarnival.com/>

**【申請事業名】**

長期に入院する子どもたちに、絵本とワークショップを通じて  
学習体験とコミュニケーションを届けるプロジェクト

**【メッセージ】**

当法人では絵本を媒介にしたコミュニケーションを提案し、絵本を大切な日常との架け橋として、病院生活のQOLの向上に貢献や、治療に対する本人の意識や、見守る家族、周囲の人にも肯定的な影響を期待し活動しています。

病気の治療を目的とした子どもたちの入院生活は、同時に、大切な日常でもあります。しかし、治療を中心とした生活の中で成長に必要な「体験」が不足してしまいます。また、長期にわたって入院している子どもや、入院に付き添う保護者は、精神的に社会から孤立した感覚を持つことがあります。そのような時、外部からの働きかけが大きな力になりえます。

今回の助成では3院で、学習テーマを中心に絵本を展示した空間を作り、子どもたちに興味を持ってもらうとともに、その空間での読書体験と学習体験ワークショップを通じて、心身の発達や好奇心を育むこと、学習の基礎を多面的に経験すること、そしてコミュニケーションの場を提供することを目的に活動を行います。

「重い病気を抱える子どもたちの学び支援活動助成」は病院で活動する私たちのような組織にとって、とても大きな支えとなっています。活動資金面での支援はもちろんのこと、同じ目的を持って活動する団体から学ぶことも多く、より社会的な活動へと発展させることができると思います。

今回、ご支援を賜りましたこと心より感謝申し上げます。

**【団体名】**

特定非営利活動法人 On P a l

**【URL】**

<http://onpal.org/>

**【申請事業名】**

重い病気で入院するこどもを対象とした音楽授業等の実施と他地域への展開

**【メッセージ】**

小児医療の技術は日々進歩していますが、知識や感性など人間にとって最も大切な能力が成長する時期を療養生活で過ごすこども達にとって、入院生活の心理的な負担を軽減し、学習意欲やコミュニケーション能力を高める取り組みが求められています。

On P a lでは、この支援を目的として、音楽家による芸術プログラムを届ける活動を継続的に行っています。クイズで楽器のことを知る、プロの演奏を聴く、楽器を触り音を出すなどの体験型授業や参加型のコンサートでは、手づくり楽器で音の出る仕組みを教えるなど、楽しみながら学習効果も期待できる内容を実践しています。また、新たなプログラムづくりにも取り組んでおり、協力団体の元気アートプロジェクトと共同で、紙芝居ミュージカル「うんち博士」「カンタローのぼうけん」などを制作して参りました。

On P a lでは現在、福岡市内の3つの病院で活動を行い4つ目の病院に打診中ですが、活動を福岡以外の地域にも広げていきたいと考えています。そこで、この度の助成金を活用し、これまで蓄積してきた音楽授業やコンサートのプログラムやノウハウをテキスト化して、On P a l会員以外の演奏家でも効果的に活動を行えるような仕組みづくりや、他県の団体や演奏家たちとも連携した新たな活動基盤づくりなどを進めたいと考えています。

公益財団法人ベネッセこども基金とご支援いただく皆様に心より感謝申し上げます。

**【団体名】**

一般社団法人 こどものホスピスプロジェクト

**【URL】**

<http://www.childrenshospice.jp/>

**【申請事業名】**

重い病気を抱えるこどものための、体験型のまなびプログラムの環境整備事業

**【メッセージ】**

この度は、2017年度重い病気を抱える子どもたちの学び支援活動助成に選んでいただきありがとうございます。当団体は2016年春、日本初のコミュニティ型こどもホスピス「TSURUMI こどもホスピス」を大阪市鶴見区にオープンしました。慈善寄付によって運営する難病のこどもと家族のための第2のお家がコンセプトです。

2017年11月末時点で86家族のエントリーがあり、それぞれの病状や緊急度を踏まえ、パーソナルアプローチによるケア活動を提供しています。「TSURUMI こどもホスピス（TCH）」は、命を脅かす病気を伴う（LTC：life-threatening condition）の子どもや家族を対象としています。

LTCの子どもたちは、先天性の病気や突然の病気治療において、さまざまな可能性のあることから逃避せざるえない現実と直面し、子どもが子どもらしく過ごすことが出来ず、病児や患者としてのみの自分との向き合いとなってしまいがちです。子どもが、『病児』としてではなく、『子ども』としての自分を取り戻せるよう、子ども自身の「知りたい」「やってみたい」という興味・関心を、入院治療中や療養中でも体験できる場を用意することで、子ども自身の「生きようとする力」につながると思われます。

病気や長期入院により、享受すべき体験の場が失われている子どもが、興味関心を同じくする子どもや仲の良い友達同士の交流をもつ中で、子ども同士のつながりを生み出すことができるよう助成事業を通じて、LTCの子どもたちが『同世代の子どもと同じ経験を生きる』活動に取り組んでいきたいと思っております。

**【団体名】**

特定非営利活動法人 チャイルド・ケモ・ハウス

**【URL】**

<http://www.kemohouse.jp/>

**【申請事業名】**

重い病気を抱える子どもとその家族へ遊ぶ機会、学ぶ機会を届ける  
ボランティアスタッフ派遣事業

**【メッセージ】**

この度は、本事業についてのご支援を賜り誠にありがとうございます。  
重い病気を抱える子ども達は、集団生活を体験することが難しいです。特に自宅療養の親子は家庭の中だけで孤立してしまうことも少なくありません。ボランティアスタッフを派遣する事により、集団に入ることが難しい子ども達にも、他者と遊び学ぶことで自己肯定感を得られるようになってほしいです。また、家族支援の中でも特にきょうだいの支援も積極的にしていきたいと思っています。

**【団体名】**

特定非営利活動法人 ポケットサポート

**【URL】**

<https://www.pokesapo.com/>

**【申請事業名】**

自宅療養中の病弱児と学習支援者を双方向Webで結ぶ学習支援事業

**【メッセージ】**

一昨年、昨年に引き続き「自宅療養中の病弱児と学習支援者を双方向Webで結ぶ学習支援事業」に採択いただきありがとうございます。この度の助成では、昨年の支援活動に加え、入院中の児への支援も力を入れることができました。

病室のベッドから出られない小学生に対し、学校で行われた6年生を送る会をリアルタイムで観覧してもらうことができました。終了後に、保護者の方から「ずっと熱心に見ていました。こんなことができると思わなかったです。ありがとうございます。」という言葉いただきました。

また、入院中の高校生のベッドへ在籍校の授業を配信するという取り組みを行うことができました。医療スタッフの方の理解をいただき、ご家族と病棟からの依頼により、ポケットサポートのICTプロデューサーが学校へ伺い、技術面や双方向WEB全般のサポートを行いました。

これらは医療、教育との連携、そして助成頂けたことで実現でき、ICTを活用した双方向WEB支援だからこそできた事例でした。さらに支援活動の幅を広げ、病気による困難を抱えた多くの子どもたちが充実した気持ちや笑顔になれるよう、学習支援事業を進めていきたいと考えております。

**【団体名】**

特定非営利活動法人 ミューズの夢

**【URL】**

<http://musenoyume.jp>

**【申請事業名】**

子ども達の芸術分野（音楽・アート）の学び・遊びをサポートする人の育成と派遣

**【メッセージ】**

ミューズの夢では訪問音楽教室事業として、年間のべ40回程の訪問コンサート・ワークショップを支援学校、支援クラス、放課後ケア等で実施しており、専門性を生かした内容に好評をいただいております。

変化の少ない日常を過ごしている病気・障がいを持つ子供たちとその家族にとって、非日常的体験となる芸術活動は、日々の活力となり、心身への影響も計り知れないものです。その貴重な活動をより良く、そして広げていくためには、提供する側が芸術的専門性に加えて、病気、障がいへの理解を深め、子どもたちに寄り添った活動を目指す必要があると考えております。

活動の提供だけでなく、派遣する人材育成に及ぶ事業を実施することによって、今後の団体の活動本体にも活力を与えてくれる事業であり、より質の高い芸術活動の提供が継続できるよう実施していきたいと思っております。

芸術は大人も子供も、ハンディがある人もない人も、言葉の違う人たちもみんな楽しんで、感動を分かち合えます。このすばらしい芸術を通し、子供たち、そしてご家族の楽しい笑顔を見る事ができます様に活動していきたいと思っております。

最後になりましたが、公益財団法人ベネッセこども基金とご支援いただく皆様に心より感謝申し上げます。

**【団体名】**

特定非営利活動法人 み・らいず

**【URL】**

<http://me-rise.com/>

**【申請事業名】**

医療的ケアが必要な子どものイベントと保護者向け、支援者向け研修

**【メッセージ】**

昨年度に引き続いて、ご支援頂きありがとうございます。

医療の向上に伴い、今までは助からなかった早産児、重い病気や障がいのある子どもの命が助かるようになってきています。その中で、人工呼吸器や痰吸引・経管栄養などの医療的ケアが常時必要な状態の子どもは少なくありません。「医療的ケア児」は想定外とされ、現状の教育や福祉サービスなどの支援の狭間に落ちてしまっています。そのため、必要な支援を十分に受けることができていません。昨年度は大阪市で医療的ケア児とその家族と一緒に参加できるイベントを3回開催しました。その中で、保護者からは「子どもから少し離れてゆっくり話す時間があってうれしかった。」「兄弟も一緒に楽しめてよかった。」などの声を聴くことができました。今回の助成では保護者セミナーを行い、保護者同士がゆっくり話せる時間をつくります。また、家族と一緒に参加できるイベントを大阪市だけではなく、堺市でも行う予定です。その中で対象年齢を就学前と学童期に分けることで、どのようなニーズの違いがあるのかも調査したいと考えています。

保護者セミナーやイベントを通じて、医療的ケア児とその家族のニーズを理解し、多くの方に発信していきます。医療的ケア児も含め、子どもたちがどんな環境であっても育まれ成長できる社会への一歩となる取り組みにしていきたいです。

**【団体名】**

特定非営利活動法人 ラ・ファミリエ

**【URL】**

<http://www.npo-lafamille.com/>

**【申請事業名】**

高校生を中心とした入院中及び復学支援者育成

**【メッセージ】**

私たち特定非営利活動法人ラ・ファミリエは、平成14年7月に設立いたしました。

難病の子どもとその家族の滞在施設を運営と平成27年度より愛媛県・松山市より委託を受け、ラ・ファミリエジョブサロンにて小児慢性特定疾病児童等自立支援事業を行っております。その中で、学習についての相談のニーズがあり学習支援の事業を行ってきました。

昨年度は、「入院中及び復学支援のための支援者育成事業」として、ベネッセこども基金より助成をいただき、1年間計5日（10コマ）「学習支援のありかたについて」「病気の子どもの配慮について」「病気の子どもになぜ教育が必要なの?」「タブレット端末の使い方、Skypeについて」「子どもの発達について」「患児を取り巻く周辺の支援について」「きょうだい支援について」等の内容で学習支援ボランティアの育成に取り組みました。今年度は、『高校生を中心とした入院中及び復学支援者育成』事業に取り組みます。ニーズもどんどん増え、課題がたくさん見えて来ました。一番感じることは『人』とのつながりではないか?ということ です。

前回に引き続き、このような機会をいただきました公益財団法人ベネッセこども基金とご支援いただいた皆様に心より感謝申し上げます。